絵心のわかる何でも屋さん

片山憲一

地方自治体の職員となって10年余．都市計画から，側溝の修繕まで，何でも経験したつもりでいる．イメージの暗い北九州市を，……どれ程かでもグレードマップ出来れば……，と入職したことが，昨日のことのように思える．

新しい技術を引っ下げて海外で活躍する同僚や，新素材の研究を進める学者人．建設行政で手腕を振う政策者．そして，現場で物を作る職人さん．皆んな土木屋さんであり，それぞれが，スペシャリストたちである．

しかし，われわれ自治体人は常に，ジェネラリストでなければならない．市民の要求は，日常的な多様な利害であり，行政の政策は，「さわやか都市づくり」等という，曖昧模糊としたものである．

私は今，現場で「ロードピア作り」を担当している．この主旨は，住区内の交通安全の確保と，快適な歩行者空間を創出するものである．プランニング時における歩行者動線，交通事故調査から，景観軸線の探索．公園との一体性の検討．沿道宅地との取り合わせによる高さ設定．身障者や住民の年令層を考慮した舗装材の選定．沿道店舗のマーケッティングリサーチ．これらの結果を頭に入れた上での住民との話し合い．警察・消防協議そして道路占用者との協議．やっとアウトラインが決まれば，実施設計づくり．その後積算に明け暮れる．工事発注．工事期間中の工法等について沿道住民と話し合い．

舗装材の色は？　植栽の樹種は？　完成後の維持管理体制づくり．やっと完成．しかし，道路植栽による落葉や飛来する水鳥のフン，騒音公害の苦情が続出する．また他ブロックへ不法駐車車輌が移動した……等々．市民サービスの本質は何か知らずに，高所で街づくりを考えていなかったか．問題は多種多様である．自分たちの住む町が住みやすければ良い．われわれは，土木屋以前に市民として，住民の要求を身体で知る必要がある．この上で知り得た知識を基に街づくりを始めなければならない．

都市の歴史，街のあゆみを知り，建築，造園，経済等のあらゆる分野をコーディネイトする土木屋．こうして小粋な設計も出来るし，愛すべき町が自然に出来上がる．

土木屋さんは，こんな絵心のわかる何でも屋さんでなくてはならないと思う．

（筆者・*Ken-ichi KATAYAMA*，正会員　北九州市建設局　戸畑建設事務所工務課）

夢を育くむ“遊び心”

渡辺恭久

私が乗っているのは，最近就航したばかりのロサンゼルス—名古屋直航便．しかも，成層圏飛行の超々音速旅客機である．ウトウトとする間もなく，「シートベルトをお締め下さい」というアナウンスに目を覚ます．小さな窓から外を見ると，青々とした伊勢湾に，ポッカリ浮かぶ空港がみるみる近づいてくる．「もう名古屋へ着いたか，つい2時間前にロス空港を飛び立ったばかりなのに」と私は隣りのかわいい孫娘に言うともなくつぶやき，…….21世紀にはこんな話しが実現していると思う．

私は，現在，財団法人中部空港調査会に名古屋市からの派遣職員として勤務している．この財団は昨年12月末，中部地域に新国際空港を建設するという，大きな夢の実現に向けて発足したばかりである．

“夢の実現”，*Civil Engineering* とは人々の夢を実現するための技術といえるのではないか．わが国では，本州四国連絡橋，青函トンネルなど，つい半世紀前には夢物語であったものがもう完成間近である．海の向うでは英仏両国民の夢をのせて，ドーバー海峡トンネル計画がその実現に向けて第一歩を踏出した．

しかし，歴史に刻まれるような大プロジェクトにすべての土木技術者が携われるわけではない．多くの土木技術者は，大プロジェクトはおろかプロジェクトと名が付くような夢のある恵まれた仕事に携わることはまれであろう．

私が携わってきた分野である市街地土木の場合，自然相手というよりも，まさに人間社会相手といった感の方

が強い．しかし，どのような土木工事も物を造るという面では共通している．そして，その中には大なり小なり人々の夢，願望が託されているものである．その夢を感じ，実現に向けて努力するのは勿論であるが，さらに，自らのうちに夢を育くむことが，土木技術者の生きがいと誇りにつながるものと思う．夢を育くみ大切にできるようになるためには，仕事に追われる日々のうちにも，常に“遊び心”，すなわち心に余裕を持つことが必要ではないだろうか．

私は今の職場に替わるまでの十数年間を振り返ってみて，この“遊び心”というものは自己の技術がある程度研かれ，仕事に自信を持ち始めた頃に生まれたように思われる．われわれ，第一線で働く土木技術者は，工期あるいは住民対応に追われ，“遊び心”を見失いがちである．忙しさに負けてはいけないと思う．

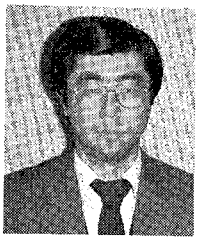
今の私は，幸いにも *Civil Engineer* として大きな夢を実現する仕事に携わっている．

これまでの体験を生かし，着実にこの夢を育てなければならないと思っている．

（筆者・*Yasuhisa WATANABE*，正会員　工修　名古屋市総務局企画課主査，派遣先：(財) 中部空港調査会）

土木行政に PR 活動を

安　田　賢　二



土木行政に携わっている技術者として，今日求められている大切な事柄は，いったい何であろうか．

世の中のあらゆる産業や文化が，日進月歩している中で，いわゆる「土木」に関する分野だけが，勘や経験や前例のみで事業を行っていくわけにはいかない．当然すぎることであり，実際には，何らかの工夫をしたり必要な検討を行ってきた．にもかかわらず，近年の土木行政は，何度も住民反対運動や建設後の公害問題等，様々な問題点の指摘を受けているのが実状である．これらの問題点について，一人の土木技術者によって解決できるものではないが，少なくとも土木行政マンとして改善できるところから取り組む必要があろう．

ところで，世の中に役立っている土木構造物は，無数にある．当然の事であるが，それらの土木構造物は，土木技術者が計画し，設計し，施工するわけであるが，窮極的には，一般の利用者に便益があり，かつ第三者に迷惑のかからない物を作らなければならない．そのために，今日まであらゆる努力をしてきたことと思う．

しかし，先程も触れたように，種々問題点が起きている．その原因は，政策的に高度な政治的判断の結果，見切り発車していることもあろうし，一概には言えない．いずれにしても，各担当が限られた時間と費用の中で決定し施行してきていることとは思うが，事業を行う場合，もっともっと取り組まねばならない事柄があると思う．

それは，土木行政の PR 活動を行うことである．

世の中に役立つ物を作る目的を，大多数の人々に受け入れられるように，正しい情報を提供することが大切である．情報を提供することによって問題点が指摘され，計画の段階で修正することも可能であろうし，いわゆる住民エゴを監視することにもなろうし，行政自身も常に注目され，事業が促進されると思う．PR 活動をすれば，批判や各種意見が出て，行政マンとしては仕事が一面的にはやりにくくなると思うが，他の分野や別の角度からの検討事項も加味され，特に問題点の多い都市施設においては，都市機能上全体としてより良い施設環境が，創造されると思う．

今日の土木行政マンは，世の中のニーズを適格に掴むための情報収集とその分析を行い，また，PR 活動によって情報を提供し住民のコンセンサスを得ながら，木目細かい対応をする必要がある．

そのためには，土木の専門分野に限らず，他の行政機関との調整や学際的な分野との共同事業によって総合的に対応できるように，フレキシブルな能力を身につける必要があろう．

（筆者・*Kenji YASUDA*，正会員　横浜市道路局　道路部建設課）

2 年続きのトラ年の始まり

太　田　敏　一

「ハードからソフトへ」．まるでコンタクトレンズ洗浄液の CM のようなこの言葉が，昭和 61 年の始まりと